

入場無料&予約不要
来場者募集中!!

飲食ブース、ヨガ体験、コーヒーワークショップの他に、
親子で遊べるブースなど。新しい!楽しい!に出会える1日→



起業家・スタートアップ 交流ラボ2025

地元秋田で起業した人、これから起業する人が大集合!
商品やサービスを購入&体験できるビジネス交流マルシェ。

Akita Entrepreneur-Startup Exchange Lab



2025 **9/28** SUN
OPEN | 11:30 → 15:30

開催会場 秋田拠点センター「ALVE」きらめき広場
同時開催 ゲスト起業家トークセッション

秋田の起業家たちの“すごい”商品やサービスを体験できる交流マルシェへGO!

【主催】(公財)あきた企業活性化センター 【後援】秋田県・秋田市
【お問合せ】株式会社Cogen TEL | 090-5836-3868 FAX | 050-6875-7224
MAIL | office.figaro@gmail.com

Event Contents

- 1 起業家交流マルシェ
- 2 ゲストトークセッション
- 3 体験ワークショップ
- 4 グルメ&キッチンカー
- 5 出展ブースインタビュー
- 6 起業相談ブース

BIC
AKITA

530
2025.09



ビックあきた Vol.530 2025年8月29日発行 編集・発行/公益財団法人あきた企業活性化センター 〒010-8572 秋田市山王三丁目1番1号
TEL.018-860-5610 FAX.018-863-2390 本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。

BIC Business Information Center AKITA

2025 vol.530

09

[ビックあきた]

公益財団法人
あきた企業活性化センター



未来の子どもたちのために
プラスチックを正しく活かす

経営探訪 [秋田エコプラッシュ株式会社]

- 04 活用事例
株式会社 オーシュンサポート
株式会社 OGURA
- 06 商標とれたて!
和洋電器製作所
- 07 主催事業報告
- 08 秋田県よろず支援拠点の紹介
- 10 お知らせ

SNSでも県内企業の取組や
事業をサポートする情報を発信!



Instagram



facebook



Youtube



未来の子どもたちのために プラスチックを正しく活かす

生活に欠かせない大切な資源であるプラスチックを
適切な処理で使い続けていく。



秋田エコplash 株式会社

秋田県能代市に本社を構える秋田エコplash株式会社は、平成16年2月に創業。北東北エリアのエコタウン事業の補助金を活用し設立されたという。平成28年に「日本パレットレンタル株式会社」が経営に参画、現在は家庭から出る廃プラスチックをリサイクルし、大型射出成形品に作り変える事業をメインとしている。令和6年から代表取締役社長を務める小泉剛さんにお話を伺った。

代表取締役社長 小泉 剛

〒016-0122
能代市扇田字扇田11-1
TEL 0185-58-5600
FAX 0185-58-5601
<https://ecoplash.co.jp/>



HP



再生プラスチックから 大型成形品を製造

平成28年からプラスチック再生事業に関与することとなった経緯について小泉さんが教えてくれた。

「私は親会社である日本パレットレンタル株式会社に貸し出すパレットを調達する業務に携わってまいりました。大量調達の裏には大量廃棄があり、資源の有効活用必要性について強く考えるようになっていました。そこへ、大型射出成形機を持つ秋田エコplash株式会社から経営参画の打診があり、再生プラスチックでのパレット製造を検討していたことから話がまとまりました。」

同社では、国内でも珍しい低圧プランジャー式大型射出成形機を保有しており、廃プラスチックから製造したペレットを原料に、大型のプラスチック射出成形品製造が可能だ。主力製品として、駐車場や学校のグラウンドなどの地下に埋設し、雨水を貯める雨水貯留槽やU字溝などを製造していたが、ここに新たにパレットが加わることとなった。



射出成形機の実操作作業。

廃プラスチックの受け入れから 成形品製造まで一貫通貫で対応

現在同社では、廃プラスチックから再生原料を製造する事業、成形機で製品を製造する事業を行うほか、新たに再生プラスチックの物性（強度や耐衝撃性等）を改質するコンパウンド事業に注力している。

「令和6年に国は大量生産・大量消費から大きく方針を変えて『プラスチック資源循環促進法』を施行しました。



再生プラスチックの原料となるペレットの製造を行っている様子。

プラスチックは今や生活に欠かせない重要な資源です。使用したものを資源と捉え、再利用することが求められています。当社では家庭から出される年間約5千トンの廃プラスチックを受け入れ、再生原料を製造、コンパウンドで求める物性に改質し、成形品まで製造しています。一口にプラスチックといっても、原料や組み合わせはその製品によって様々だ。工場内では、人の手と光学選別機によるプラスチックの分別作業を徹底的に行った上で原料化している。

「全国で廃プラスチックを受け入れている事業所は40社弱。うち30社程度がペレット製造、残る10社は成形品まで作っていますが、その中で当社はダントツ1位の成形技能を誇っています。設計に係る構造解析・流動解析をはじめ、高品質の大型成形品を製造することまで自社で『一貫通貫』して行えることが当社の強みです。」

市場の“求め”に応じて 企業の在り方を変えていく

小泉さんに廃プラスチックのリサイクルに取り組む思いを伺った。



海浜清掃で集めたプラスチックから作ったハーブポット。

「高品質で高収率なリサイクルを通じて人の生活を豊かにし、持続可能な社会を実現したいと考えています。市場での需要状況を探りながら商品開発を行っています。現在は成形品の製造が最も割合を占めています。今後はコンパウンドの技術を高めて、市場が求めている原材料を開発することで、売り上げを拡大していけたらと思います。この先、石油から作られるプラスチックについては制限が掛かることは間違いありません。再生プラスチックでニーズを満たす材料を作れることが求められるはずです。」

環境への取組も進めており、太陽光パネルを設置したほか、秋田県産水力発電由来の電力を使用するなどCO2排出量を大幅に削減した。また、令和2年から能代市で海浜清掃活動を行っており、回収したプラスチックでハーブポットを製造し、市内の小学校に寄贈しているという。

地域に貢献し、住民に愛される企業を目指し、子どもたちに明るい未来を残すための努力は続く。



自社の中で設計から解析まで行っている同社。ラボでは新たな商品開発にも取り組んでいる。

設備貸与



株式会社
オーシュンサポート

給食の専門業者として
安心・安全な食を提供し
地域に貢献していきたい



支援できる幅を広げるため
今後は常温で保存できる
加工品製造に力を入れたい！

地域の施設を支援する事業を開始

青森県弘前市出身の野崎由佳さんが、株式会社オーシュンサポートを設立したのは令和2年のこと。設立から6年目を迎える。給食事業をメインに行う会社だ。弘前市から大館市へ移住し、現在は、病院や保育所、介護施設などから委託を受け、給食サービスを提供している。

人口減少問題が顕著になり、どこも人手不足が問題となっている。給食を提供する必要がある総合病院や介護施設、保育所でも、調理師や栄養士といった資格を持つ人材の確保が難しく、専門の事業者へ委託する施設が増えているという。同社が力を入れているのは、地域の特産物や旬の食材の提供だけではない。栄養士による献立の提供を行い、食べやすい食材の切り方や調理法を工夫するなど、施設や利用者の希望に沿うことで食材ロスへの対策にも取り組んでいる。

介護する人、される人が楽しめる外食を

昨年8月、給食加工設備と店舗を兼ね備えた社屋が完成し、自社施設で作った給食を各施設へ配送するサービスができるようになった。店舗にはレストラン「食茶寮IWAKI」をオープン。介護する人とされる人がともに外食を楽しめる場所を提供したいと考え「赤ちゃんから90代のご高齢の方まで楽しんでほしい」というコンセプトのもと、食事の工夫や店内のバリアフリーなど工夫が施されている。家族みんなと一緒に外食を楽しめる場所として、連日大盛況だ。

「限られた人員で効率的に店舗運営を行いたかったため、今回、レジ締め作業が不要なPOSレジを導入したいと考えました。金融機関から活性化センターの設備貸与制度の紹介を受けてご相談しました。スピーディーに対応していただいて、感謝しています」。

同社の給食設備は「医療関連サービスマーク」を取得しており、今後は「食品加工業務」にも力をいれたいと語る野崎さん。「給食だけでなく、一般向けに常温で備蓄が可能な商品を提供していきたい」と意気込みを教えてくれた。



のざき ゆか

代表取締役 野崎 由佳

株式会社オーシュンサポート
〒017-0844
大館市宇新町36
TEL:0186-59-4631
<https://iwaki14.com/>



HP

▶活用事例
設備貸与

設備の導入により、経営基盤の強化を目指す企業に対し、必要とする設備を割賦販売またはリースします。

【お問い合わせ】
設備支援課
TEL.018-860-5620



「食茶寮IWAKI」で提供している食事。
彩り豊かで新鮮なメニューが並び。



あえてテーブル席のみとし、店内は落ち着いたシックな雰囲気。



今回導入したPOSレジ。
自動計算機能から金庫機能まで備えている優れものだ。

あきた農商工
応援ファンド

株式会社
OGURA

製粉事業が自社の主軸
粉の活用方法を広めて
需要開拓を目指す



私たちの粉を使うことで
何ができるのかを明示し、
製粉事業を盛り上げたい！

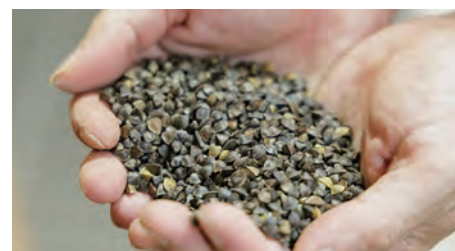
米粉の生麺のおいしさを乾麺で再現したい

初代が地元の穀物を製粉する町工場として立ち上げた株式会社OGURA。昭和56年には事業を先代が法人化し、現在は3代目となる小倉隆市さんが代表を務めている。先代であり、現在会長を務める父・隆夫さんはアイデアマンで、自分たちで設備と技術について改良を重ね、いくつか特許も取得してきたという。今では有機JAS認定工場として、そば粉のほか、米粉の製粉、野菜の乾燥・粉碎加工も行っている。

今回、あきた農商工応援ファンドを活用して同社が取り組んだのが玄米粉を使った乾麺の開発だ。以前から自社で製麺加工も行っており、特殊製粉された米粉生地から、クオリティーの高い生麺ができた。しかし生麺では店舗に来て食べてもらうしか方法がなく、その味に魅了された取引先に、現在冷凍麺の形で提供を行っているものの、常温商品として流通を拡大したいという思いからファンドの活用に至ったという。



オーダーに合わせて、そばの製粉をしている様子。
取り扱うそばの種類も多く、挽き方も千差万別。



秋田・青森・岩手の北東北3県の栽培農家と直接契約を結び、
国産のそば粉の安定供給に取り組んでいる。



半生麺、冷凍麺の製麺加工の設備が整っている。

最終目的は自社の製粉技術を広めること

自社には乾麺を作る設備がなく大きな乾麺工場へ依頼をしなくてはならない。機械が大きく、ロットも大きいため、複数回にわたって試作をするとなれば、原材料の費用負担が大きい。ファンドを活用したことで、商品開発にかかる試作費の一部を賄うことができ、助かったと語る小倉さん。

同社の新商品開発では、開発した商品そのものを売ることも、その商品を通じて、広くOGURAの粉を知ってもらい、新たな需要を掘り起こすことを重視している。「今は東京にあるグループ会社が営業と販売を担う他、ECサイトでの販売にも力を入れています。新商品を通じて、うちの粉を使ってくれる取引先を増やしたいです。『玄の舞めん』は玄米粉を使っているのでグルテンフリー。海外ではグルテンフリーの興味関心が高いため輸出も視野に入れています。アレルギーに配慮しながらおいしいものを食べたいという需要、思いは間違いなくある。おいしいものを作れば、選んでもらえるはずです」。

“人に良い食®”を提供するために開発される同社の製粉技術と製品にこれからも期待したい。



おぐら りゅういち

代表取締役社長 小倉 隆市

株式会社OGURA
〒018-5701
大館市比内町扇田字倉下5-1
TEL:0186-55-3090
<https://oguraseifunsho.jp/>



HP

▶活用事例
あきた農商工応援ファンド

中小企業者等と農林漁業者が連携して取り組む県産農林水産物を活用した新商品や新サービスの開発及び販路開拓などの取組を支援します。

【お問い合わせ】
研究推進課
TEL.018-860-5702



和洋電器製作所

まえの のぶゆき
前野 信之

〒018-4611
北秋田市阿仁水無字大町20-1
TEL:070-9078-3008
<https://r.goope.jp/wayodenki/>



H P

スピーカーの振動板を製造 初めてのオリジナル商品を開発

豊かな自然に囲まれた北秋田市阿仁にある和洋電器製作所は、昭和47年に代表である蒲潤子さんの父が創業した。スピーカーの部品である「振動板」を製造しており、地震や津波が発生した際に使われる「防災スピーカー」などで使用されている。これまでは部品製造のみを行ってきたが、この度初の自社商品を開発した。それがクマとの遭遇回避を目的とした拡声器機能付スピーカー「ベアビビール®」だ。開発を企画・担当した前野信之さんにお話を伺った。

「近年クマの出没が頻繁になり、日常茶飯事となってきました。私は北海道出身で、子どものころから父や祖父から釣りをするときは音を出すよう教えられて育ちました。昔からオーディオが好きで構造を理解していたこともあり、クマ被害を減らすために大きな音が出せて携帯できるスピーカーがあればいいのではと考えて、企画しました。マタギ文化がありクマが生息するこの地域で、音の仕事をしているならやるべきだと思ったんです」。

費用が高額になるため、開発は難航 ネットワークを活かし、実現へ

新商品開発を進めている中で、完全にオリジナルで作ると、思った以上に資金がかかることがわかった。価格に転嫁するにも、現実的ではない。そこで取引先に相談し、既存の部品をうまく組み合わせることで実現にこぎつけた。長年大手メーカーと取引をしていた信頼と実績が商品化を後押ししたのだ。

「これまで使い続けられてきたスピーカーの構造を活かしたことで、コストを抑えられただけでなく、信頼性や耐久性の裏打ちができました。そして何ととっても、乾電池で音が出せるので災害時や、電波の届かない山の中でも使えるという最も必要な条件をクリアしています」。

商品開発に目処がたったところで、わかりやすい商品名として「ベアビビール®」を考案。ロゴと商品名の商標申請のために活性化センターへ相談した。いずれも商標を取得したことで、商品展開も可能となり、スピーカーのほか、クマ撃退スプレーにもロゴを活用してブランド展開を行い、大手ECサイトを中心に販売中だ。和洋電器製作所の商品には、地域への思いが詰まっている。



前野さんが持つのは、クマが嫌がる匂いを噴射するスプレー。隣は代表の蒲さん。



クマに人がいることを知らせるためのスピーカーを操作する前野さん。かなり大きな音が鳴り響く。



ブランドとして認知してもらえるように、ロゴマークを様々な商品に展開している。



MIRAI WORKS×秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 副業・兼業人材活用セミナー&個別相談会

7月29日、北秋田市の「北秋田市民ふれあいプラザ コムコム」にて、秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点主催の「副業・兼業人材活用セミナー&個別相談会(県北会場)」が開催された。会場では10社17名、オンラインで40社26名が参加した。

副業・兼業人材とは、都市部のビジネスパーソンのスキルを地方の企業が有効的に活用するための手法である。この日は株式会社みらいワークス 地方創生部 Skill Shift事業責任者の岩本大輔氏による『「副業・兼業人材とは？」令和時代の新しい人材確保術—変化の激しい時代の新たな人材活用—』と題したセミナーが行われた。



コロナ禍を経て、働き方は多様化し、労働をめぐる環境は急激に変化した。地方企業にも既存事業の見直しや強化、DX導入による効率化などが求められる時代の中、全国的に働き手が不足し、地方ではその問題がより顕著だ。さまざまな経営課題を解決するための優秀な人材を探しても、なかなか採用に至らない、というのが現状だ。

2018年に多くの大企業では副業が解禁され、場所に囚われず働けるリモートワークが浸透。オンライン会議やビジネスチャットなどのITツールが急激に普及した。地方の企業と都市部の人材の距離がぐっと縮まるさまざまな条件が整ったといえる。

セミナーでは具体的な事例を交えながら、副業・兼業人材とのマッチングにおけるメリットを説明。セミナー終了後には株式会社みらいワークスと参加企業による個別相談会が行われた。



セミナー講師の声



株式会社みらいワークス 地方創生部

いわもと だいすけ

Skill Shift事業部 岩本 大輔 氏

多くの企業の経営者には、取り組みたいけれどまだ着手できていないことがあり、その一歩を踏み出すのはなかなか難しいものだと思います。この副業・兼業人材とのマッチングをひとつのきっかけにさせていただきたいと思います。面接や面談は無料ですし、県の補助も受けられます。一度話をし、納得したうえで進めることができますので、チャレンジしてみたいかがでしょうか。第三者と話してみることで、気づいていなかった発見が必ずあると思います。その上で面白い取り組みができそう、と感じられれば踏み出せなかった一歩に繋がるはずです。



参加者の声



有限会社大成商事

くれ すみえ

専務取締役 呉 住江 さん

先日、鹿角市の工業振興会の総会で副業・兼業人材についてのお話を聞き、興味を持ったので参加しました。以前から、社内の人間だけでは視野が狭くなってしまうため、外部の方から意見をいただきたいと思っていました。当社は産業廃棄物、主に使用済み自動車を集めて解体し、部品を輸出したり、国内で販売したりしています。プロ人材の方に参画していただけるのであれば、経営者の育成という部分で力添えいただければ嬉しいです。私たちの強みや弱みを客観的に抽出してくれる視点が欲しいと思っています。今日のセミナーを通じて、思ったよりも安価にお願いできること、県の補助も受けられることがわかったので、まずは相談してみたいと思います。

〒018-5201
鹿角市花輪字葉ノ木谷地198
TEL.0186-30-1201
FAX.0186-30-1233
E-mail taisei1@juno.ocn.ne.jp



公益財団法人あきた企業活性化センター

秋田県よろず支援拠点

よろず支援拠点は、中小企業・小規模事業者や創業予定者を対象に、国が各都道府県に設置した無料の経営相談所です。創業から事業承継まで全ステージに対応するため、秋田県では知ることでも一歩前に進む「スキル補完コース」、課題を定め実践する「成果創出コース」、将来に向けて経営品質の向上を図る「組織改革コース」の3コースで支援を用意しており、17名の専門コーディネーターが相談に応じております。さらに他の支援機関や外部専門家と連携し、課題解決を全面的にサポートします。

【お問い合わせ先】秋田県よろず支援拠点 TEL.018-860-5605

HPはこちら→



チーフコーディネーター
松浦 忠雄

〔専門分野〕
創業支援、経営改善、売上拡大、マーケティング

大手小売業や商業施設デベロッパー等の流通業で約30年、国や県の中小企業支援機関で約20年の企業支援と地域振興支援の実績があります。小売業から製造業まで経営者と一緒に取り組みます。



ジェネラリストコーディネーター
鎌田 晶子

〔専門分野〕
経営改善、売上拡大、施策活用

2014年のよろず拠点開設以来、経営者の皆さまと一緒に、お悩み解決に向けた知恵を出し合う支援を心掛けてきました。よろずならではの様々な支援メニューもございますので、どうぞお気軽にご相談ください。



ジェネラリストコーディネーター
佐藤 茂樹

〔専門分野〕
創業、売上拡大、加工食品開発・販路開拓

金融機関やコンサル事業で様々な事業に関わった経験に基づいて、事業のジャンルは問わず、創業、売上拡大、販路開拓、資金調達など事業全般のサポートをいたします。創業、食品関連事業のサポートはお任せください。



ジェネラリストコーディネーター
佐々木 雅樹

〔専門分野〕
ものづくり屋ができる財務分析、事業計画や収益改善計画、経営資本を活かす開発支援やコーディネート

相談者の悩みごとや問題点を良くお聞かせ頂き、経営改善に繋がること、成果に結びつけることを第一に考え、ご支援に取り組んでいます。ものづくりの経験や現場で起きる諸所の体験を活かした地味な活動をコツコツとがモットーです。



ジェネラリストコーディネーター
渡部 信子

〔専門分野〕
人手不足対策・価格交渉・創業支援

経営者に必要なのは、ビジョンを持ち計画を実行する力、顧客視点の技術・ノウハウ、数字を読み解く判断力の3つです。建設・運輸・製造業を中心に、経営力向上を実践的に支援します。



ジェネラリストコーディネーター
土田 茂

〔専門分野〕
事業承継、売上拡大、マーケティング

事業承継や自社の強みを活かした経営戦略立案、マーケティング戦略の策定まで、実行につながるご相談を心掛けています。



ジェネラリストコーディネーター
櫻田 誠二

〔専門分野〕
資金繰り円滑化、経営改善計画策定、事業承継支援

地元金融機関で経営者の課題解決に取り組み、56歳の時に中小企業診断士の資格を取得しました。FP1級技能士及び宅地建物取引士の資格も保有しており、経営だけでなく生活関連等の相談にも応じられることが強みです。



ジェネラリストコーディネーター
鶴田 卓也

〔専門分野〕
経営改善、労務管理、補助金・助成金

社会保険労務士・中小企業診断士として、労務管理と経営支援の両面から中小企業をサポート。現場に寄り添い、実行可能な改善策をご提案します。



ジェネラリストコーディネーター
藤嶋 智

〔専門分野〕
事業計画作成、収益改善、6次産業化及び農商工連携

地域資源を活かした新たな事業計画、収益改善の取り組みや資金繰りなど、お気軽にご相談ください。現場に寄り添いながら、実践的な提案を心がけています。皆様の夢の実現に向けて、一緒に歩いていきましょう。



スペシャリストコーディネーター
富澤 稔

〔専門分野〕
デザイン、広告、ICT、商品企画

デザイン思考と最新技術(広告、ICT、AI)を組み合わせ、あなたの事業のビジョンをカタチにしませんか？未来を共に創るパートナーとして、目標達成を全力でサポートします。



スペシャリストコーディネーター
大森 麻美

〔専門分野〕
人材活用・観光(マーケティング戦略、商品造成・販路拡大)

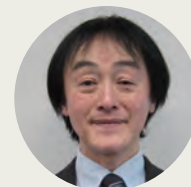
人材活用・観光分野の地域の活性化事業、マーケティング、広報、現場改善といった実務経験を活かし、地域企業の実践的なご支援に共に取り組んでまいります。



スペシャリストコーディネーター
杉田 和可子

〔専門分野〕
言語化、販売促進戦略、マーケティング

女性ファッション誌からメンズ系雑誌、テレビ台本等、25年以上様々なメディアでマーケティングベースでの執筆を経験してきました。「コンセプトやキャッチコピー等の言語化／ブランディング／販売促進戦略／Web・SNS活用」を担当しています。



ジェネラリストコーディネーター
野中 健吾

〔専門分野〕
事業承継・M&A支援、創業支援、新規事業開発支援

秋田県よろず支援拠点を「さまざまな事業者様との新しい出会い」、「自分が理想とする事業者様向け支援の実践」の場にしたいです。約30年の秋田県内金融機関勤務で培った貴重な経験を事業者様の発展に活かします！



ジェネラリストコーディネーター
渡邊 光彦

〔専門分野〕
金融支援、創業支援、経営支援

「お金」のご相談はお任せください。金融機関・市役所・保証機関に40数年勤務し、融資審査・補助金審査の経験があります。創業支援から企業のライフステージに対応した経営支援を行ってまいります。



スペシャリストコーディネーター
秋元 英樹

〔専門分野〕
AI、Webサイト制作・SNS運用、チラシデザイン

AI活用やSNS運用、売上アップのチラシ、Web制作、業務のデジタル化をわかりやすく支援します。些細なことでも遠慮なくご相談ください！



スペシャリストコーディネーター
中野 智恵

〔専門分野〕
SNS・チラシ・デザインを活用した身近な販促支援、海外経験を活かしたIT導入と情報発信の工夫、地域資源・空き家等を活かしたコミュニティづくりと外部連携

タイ在住10年の経験を活かし、ITやSNSを使った発信や県内外・国内外の人との連携、地域資源を生かした販促をサポートします。秋田だからこそできる仕組みを一緒につくります。



スペシャリストコーディネーター
青木 一幸

〔専門分野〕
IT利活用、DXアドバイザー

「紙とペン」から「デジタルデータの利活用」への業務改善から、大規模な基幹システムの機能改修まで、幅広く秋田県内の中小企業の支援を行っています。現場の最適化を目指し、成長する企業様を積極的にご支援します。

賛助会員募集

あきた企業活性化センターでは、県内の中小企業の新分野進出や経営革新等を支援する事業を行っており、この活動にご賛同いただける賛助会員を募集しています。

年会費**1万円**

企業・団体・個人等、どなたでもご入会いただけます。
また、有料広告・無料広告の掲載についても随時募集しております。

賛助会員様の
無料広告は
**随時
受付中**



主な会員特典

- 当センターが発行する月刊情報誌「ビックあきた」の**無料配布**(12ヶ月分)
毎月月末に3,000部発行。賛助会員のほか、マスコミ各社、金融機関、商工団体、県内の大学・高校等へ配布しています。
- 当センターWEBサイトの**リンク集への掲載**
- 「ビックあきた」への賛助会員広告が**無料**
毎月2社程度、A4・1/4頁、カラー印刷

- 有料広告欄の費用が**半額**
- 企業情報等のリーフレット**折り込み**
※要事前相談
- 当センターHPのバナー広告料が**半額**
当センターの賛助会員のリンクも掲載

お問合せ／申請先 あきた企業活性化センター 総合企画部 総務企画課
TEL.018-860-5603 FAX.018-863-2390 E-Mail:soudan@bic-akita.or.jp

WEBサイトはこちら▶



来場登録
受付中!

出会える・相談できる2日間

デザイン見本市

2025.10.1 [wed] - 2 [thu]

秋田拠点センターALVE きらめき広場

販促、Web、写真、パッケージ、ロゴ……

「今ある商品をもっと良くしたい」「新商品を企画していて、デザイナーに相談したい」
そんなとき、だれに頼めばいいかわからないと感じたことはありませんか？
デザイン見本市は、秋田県内のプロのデザイナー 15 組が集まり、実例を見て話して、
外注や相談のきっかけを見つけられる展示商談会です。

「補助金申請に向けてパートナーを探している」「何から始めればいいのか分からない」
そんな方も大歓迎。まずは見るだけ、話してみるだけでも、次の一歩が見えてきます。



こんな人におすすめです

- 自社商品のパッケージや販促物を見直したい方
- 新商品・新サービスの開発で、伝え方に悩んでいる方
- 補助金を活用して、デザインやブランディングを進めたい方 など

詳細・お申込み

検索またはQRコードから特設サイトをご覧ください。



デザイン見本市 秋田

令和7年度中小企業等知的財産支援地域連携促進事業費補助金(中小企業等知的財産支援事業)活用事業

外部プロ人材活用フォーラム inミルハス

企業のイノベーション・成長戦略を人材マッチングで支援して10年。
外部人材活用で「稼ぐ経営・継続する経営」へと変容した経営者の「決断」の報告

2025.9/18(木)

参加
無料

13:30-16:00(開場13:00)
あきた芸術劇場ミルハス 小ホールA

定員 会場50社 オンライン100社

対象 秋田県内中小企業経営者等

第一部〈基調講演〉

『逆境を力に変える経営』

激変する時代を生き抜く地方企業の戦略と決断

第二部〈パネルディスカッション〉

変革か衰退か。変わり続ける中小企業のリアル

『生き残りをかけた変革挑戦』

「お問合せ」 秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点

〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1 公益財団法人あきた企業活性化センター内
TEL.018-860-5624 FAX.018-860-5612 E-mail projinzai@bic-akita.or.jp

当事業の詳細の確認
ご相談はこちらから
www.akita-projin.com

